

私たちが「町に自信と誇りを持って」

●志津見ダム周辺地域活性化対策

●ふるさと応援寄附金

●商工業の振興

「飯南米」の品質向上と有利販売に努め、関東・関西などで米を販売する「A.K.O.M.E.Y.A」と協力して、飯南米の知名度向上につなげます。「二町一農場」担い手の実現に向け、集落営農の広域連携や農業法人の設立を推進します。農業基盤整備は、国、県などの事業を活用し、ほ場や暗渠排水、用水施設の整備を進めます。

鳥獣被害防止対策は、防護柵の設置や捕獲器の導入などを進めるほか、資格取得助成金などで後継者の確保を進めます。

畜産振興では、3年後の鹿児島全共に向けて、「みんなが丸」となり目指そう「しまね和牛」日本一」のスローガンの下、県種雄牛の産子の保留や、若手生産者の育成を進めます。

林業では、「林業の魅力化プロジェクト」を推進し、木材の販路開拓や商品開発、農林大学校や飯南高校と連携した人材育成を進めます。また森林の適切な管理を進めるため、地域協議会を立ち上げ、経営管理ができていない山林の抽出などを行います。

●健康・福祉

●地域医療の充実

●地域包括ケアの推進

●健康づくりの推進

●地域包括ケアの推進

●観光振興では、昨年「出雲大社神楽殿の大しめ縄のかけ替え」が、多くのメディアに取り上げられ、本町への観光入り込み客数は前年度から3万7千人増の42万4千人となりました。全国に誇る歴史文化や観光資源などを情報発信するとともに、サイクリングや森林セラピーなど魅力ある体験メニューで、本町への観光誘客と知名度向上につなげます。

平成30年度のふるさと納税額は、過去最高額の1億4千万円を超える見込みです。今後もより一層、地場産品の魅力をPRし、産業の活性化につなげます。

商工業振興は、光ケーブルの整備によりインターネットの回線速度が向上することから、「本町で新たな仕事を創業したい」という事業者を募集し、新規創業による定住者や雇用の確保につなげます。また産業支援センターなど関係機関と連携し、地域に根ざした商工業の振興や若者の起業・創業を支援します。

●地域福祉の充実

●高齢者・障がい者にやさしい環境づくり

●子ども・若者支援事業

●国民健康保険事業は、保険料率を引き下げることとしました。国保運営の動向を注視しながら、健康づくりと合わせて、安定的な国保運営を進めます。

継続的な課題である医療福祉人材の確保には、教育機関や福祉施設などと連携して取り組みます。飯南病院では、禁煙外来の開業や災害医療の模擬訓練の実施を予定しており、病院機能の向上に取り組みます。また、住み慣れた町で最後まで生活できるように地域包括ケアを推進します。

障がいのある方に対しては、地域で自立した日常生活や社会生活を送り続けられるよう、相談支援や障害福祉サービス等の円滑な実施に努めます。また社

●生活環境

●定住の促進

●公営住宅の整備

●国道54号活性化対策

●生活道の整備

●情報通信施設の高速度化

●簡易水道・下水道の整備

●防災訓練

●消防施設の整備

●空き家対策

定住促進では、相談体制の充実、情報の発信、人材確保支援センターによる仕事の紹介などにより、定住人口の増加につなげていくほか、定住住宅2棟の建設を計画しています。公営住宅は、既存の衣掛団地の解体と3号棟の用地造成工事を行います。

道路整備は、改良中路線の進捗を図り、橋梁長寿命化、法面対策などとともに生活道の安全確保を進めます。また「除雪機械運転資格取得支援補助金」を創設し、建設業等の後継者育成を支援します。

●情報通信施設では、頓原地域のインターネットの光回線化の工事に着手します。

水道施設は、佐見地区の水道整備などを、下水道施設は、合併処理浄化槽の設置を継続し、上下水道の普及率の向上に努めます。また水道・下水道事業とも公営企業会計に移行し、経営状況の確かな把握と経営基盤の強化を図ります。

防災体制では、出水期前の6月に防災訓練を実施します。自治区や防災士、住民と関係機関が一体となった防災訓練にしたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。また地震計の未設置区域となっている志々地区に簡易地震計を設置します。

消防施設では、消防団の小型消防ポンプ付普通積載車2台を更新するほか、野苺地内に防火水槽1基を設置します。

空き家対策では、倒壊により通学路など周辺におよぼす影響が特に高いと判断された家屋は、所有者に適切な管理や必要に応じた撤去などをお願いしたいと考えています。また「管理不全空き家等対策事業」を創設し、特定空き家の除却費用の一部を助成します。

平成31年度施政方針

本町をはじめ中山間地域の経済情勢は厳しく、各産業分野での人材不足の慢性化、出生数の減少など、人口減少に歯止めがかからない状況に直面しています。

そうした中、近年「田園回帰」という潮流に見られるように、若者の自己実現の場として「田舎」に熱い視線が注がれるようになってきました。本町では、宝島社発行の「田舎暮らしの本 住みたい田舎ランキング」で「子育て世代が住みたい田舎部門」で日本一になるなど、定住施策などが全国で高い評価を受け注目されています。

これから迎える「新たな時代」においても、私たち自身が「飯南町に自信と誇りを持って暮らしていく」ことが大切です。新年度は、これまでのまちづくりを踏まえ、本町の暮らしや地域資源を見つめ、価値あるものとする「飯南の農村価値創生 元年」と位置づけ、町民の皆さんと一緒に、町政推進に全力で取り組みます。

「町に自信と誇りを持って」

私たちが



飯南町長 山崎 英樹

■主要施策

- 縁結びの支援
- 学習環境の充実
- 保小中高一貫教育の推進
- 飯南高校への支援
- 平等に暮らせる社会づくり
- 第3子以降の出産祝い金・子育て支援給付金、子育て応援企業への支援を継続し、国の保育料無償化の施策と合わせて、子育てがしやすい環境を整備します。また保育士を目指す学生等を「就学助成金」などの制度で支援し、町社会福祉協議会と連携して保育士の確保を進めます。
- 小中学校のエアコン整備は、1学期中の設置完了を目指します。保小中高一貫教育の推進は、平成24年に策定した「保小中高一貫教育計画」を見直し、飯南高校とともに、町の地域資源を活かした特色ある教育を進めます。
- 昨年度実施した「人権問題に関する町民意識調査」を基に、「町人権施策推進基本方針」を改定し、一人一人の人権が尊重される社会の実現を目指して、人権教育や啓発活動を推進します。
- ◆産業
 - 農林・畜産業の振興
 - 観光の振興
- ◆教育・文化・子育て
 - 子育てしやすい環境づくり
- ◆自治・協働
 - 長期計画の策定
 - 協働のまちづくりの推進
 - 小さな拠点の形成
 - 地域おこし協力隊・集落支援員の配置
 - 総合振興計画（後期計画）と総合戦略の見直しを一体的に進め、より実効性のあるまちづくり計画を策定します。
 - 「集落実態調査」を引き続き実施します。また「地域づくり活動応援補助金」を創設し、地域課題の解決に取り組む地域を応援します。
 - 来島拠点複合施設は、建築工事に着手し、公民館や図書館、学習支援館などが一体となった複合的な施設として完成を目指します。